

令和3年度 有明の丘研修 実施報告

2-1. オンデマンド講義に関するアンケート結果

① オンデマンド講義について(受講者)

「講義の満足度」は、オンデマンド講義全体では、第1期 87.9点、第2期 88.1点であり、受講者の満足度は高い。

「講義の方法や進め方の理解のしやすさ」「テキストの視認性・分量の適切さ」とも、第2期のオンデマンド講義全体では、「非常にそう思う」「そう思う」の合計が88%以上であった。この結果から、オンデマンド講義については、令和2年度と同程度の講義が提供できていたといえる。

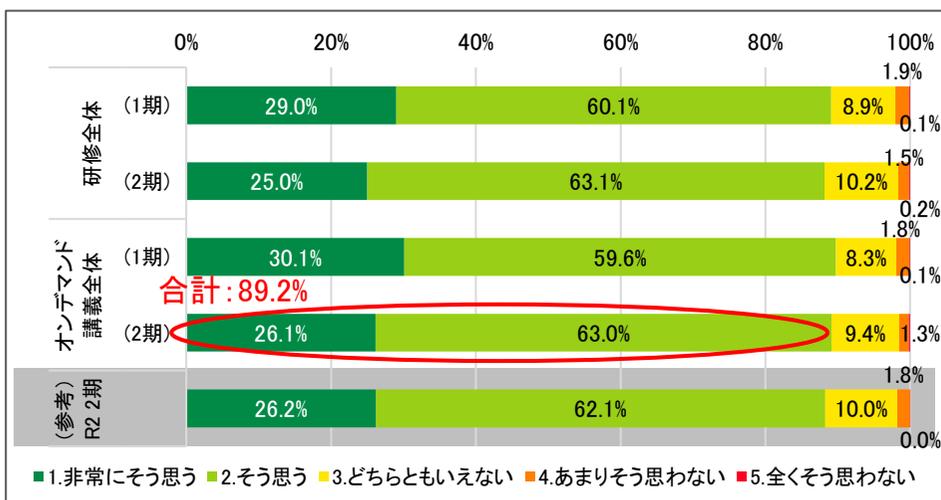
● 講義の満足度

この講義・演習の内容に対する満足度を100点満点で評価してください。

コース	点数	
	第1期	第2期
研修全体	87.8点	87.9点
オンデマンド講義全体	87.9点	88.1点
(参考) 令和2年度 第2期	88.4点	

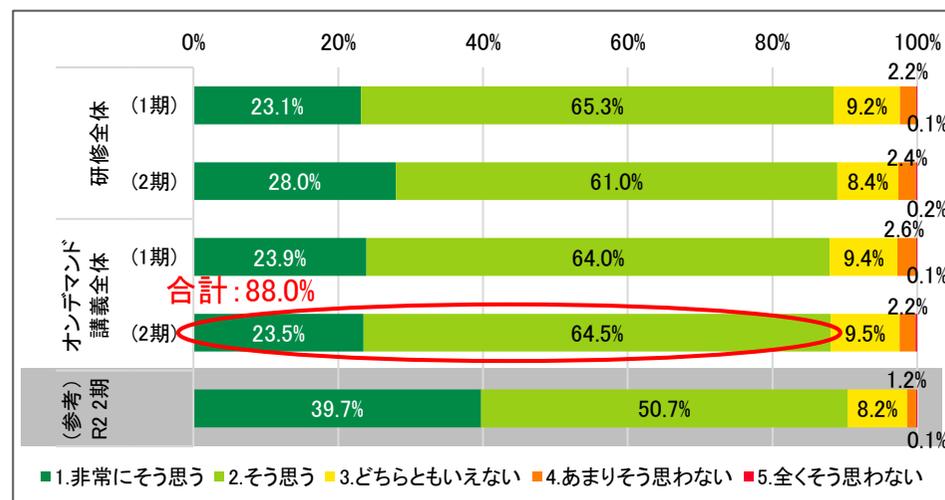
● 講義の方法や進め方の理解のしやすさ

講義・演習の方法や進め方(話し方・態度・時間配分・作業・班割り等)は、理解しやすかったですか？



● テキストの視認性・分量の適切さ

テキストの視認性(見やすさ、分かりやすさ)や分量は適切でしたか？



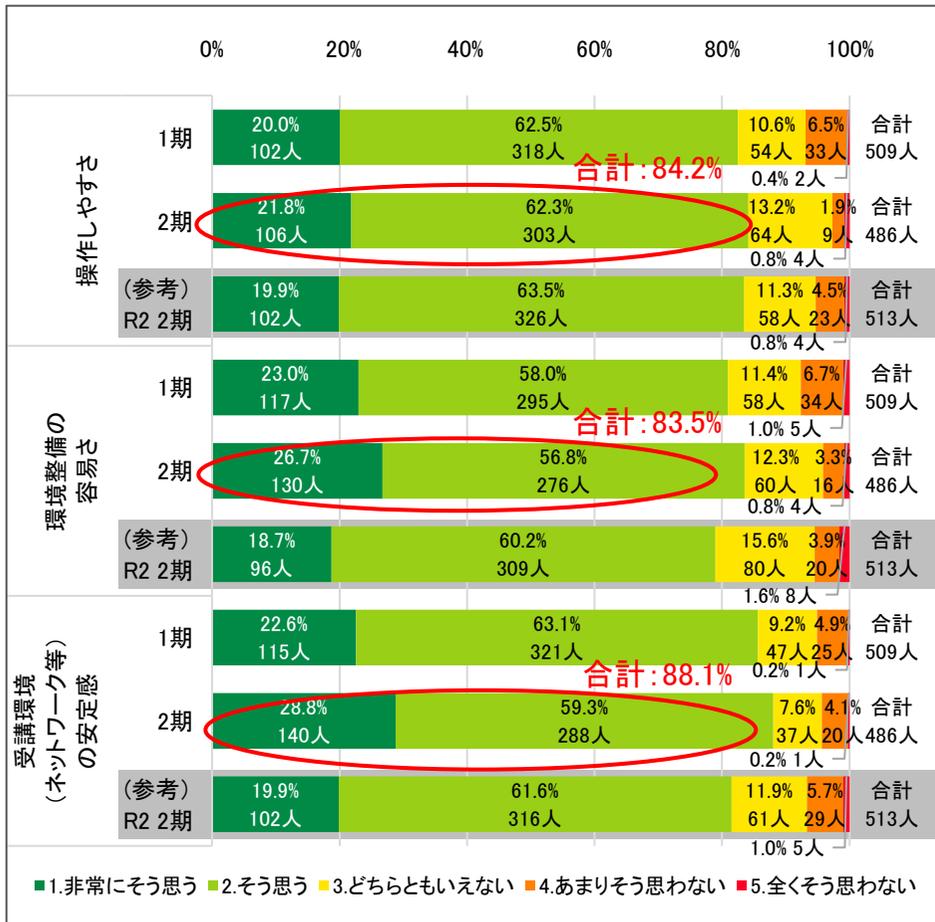
2-1. オンデマンド講義に関するアンケート結果

② オンデマンド講義及びシステム(LMS)について

システム(LMS)の「操作しやすさ」、「環境整備の容易さ」、「受講環境(ネットワーク等)の安定感」は、受講生の80%以上が「非常にそう思う」「そう思う」と解答している。オンデマンド講義の受講にあたって困ったことについては、「回線の調子が悪く、途中で音声や画像が途切れた」等の意見が挙げられた。講師・コーディネーターからは、「受講者の質問に回答するための動画の作成」、「事例更新」などのご意見をいただいた。

● システム(LMS)の評価

- ・オンデマンド講義(LMS)のシステムは操作しやすかったですか？
- ・オンデマンド講義(LMS)の受講にあたって、環境整備は容易でしたか？
- ・オンデマンド講義(LMS)の受講環境(ネットワーク等)は安定していましたか？



● 受講者意見

オンデマンド講義(LMS)やリアルタイム演習(Zoom)について、今後の改善に役立てたいため、環境の整備や受講環境等、受講にあたって困ったこと等、ございましたら自由にお書きください。
※オンデマンド講義のシステム(LMS)に関する意見を抜粋

- ・ 職場の回線の調子が悪く、途中で音声や画像が途切れた。(12人)
- ・ 職場のセキュリティやオンライン研修に使用できるPCの台数に限りがあり、機材の確保が難しかった。(3人)

● 講師意見

講義の撮影やリアルタイム演習について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。
※研修全体のオンデマンド講義の改善につながる意見を抜粋

- ・ 時間が限られているため説明不足になる。受講者の質問には質問会で回答しているが、講師の補足資料として、受講者の質問に答えるための動画があっても良いのではないかと感じた(1人)

● コーディネーター意見

各単元について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。
※研修全体のオンデマンド講義の改善につながる意見を抜粋

- ・ 講義動画を作成して一定期間がたったため、事例更新について取り組むべきではないか(2人)

2-2. リアルタイム演習に関するアンケート結果

① リアルタイム演習について(受講者)

「演習の満足度」は、リアルタイム演習全体では、第1期 87.5点、第2期 87.3点であり、受講者の満足度は高い。

「演習の方法や進め方の理解のしやすさ」「演習の視認性・分量の適切さ」とも、第2期のリアルタイム演習全体では、「非常にそう思う」「そう思う」の合計が80%以上であった。この結果から、リアルタイム演習については、令和2年度と同程度の演習が提供できていたといえる。

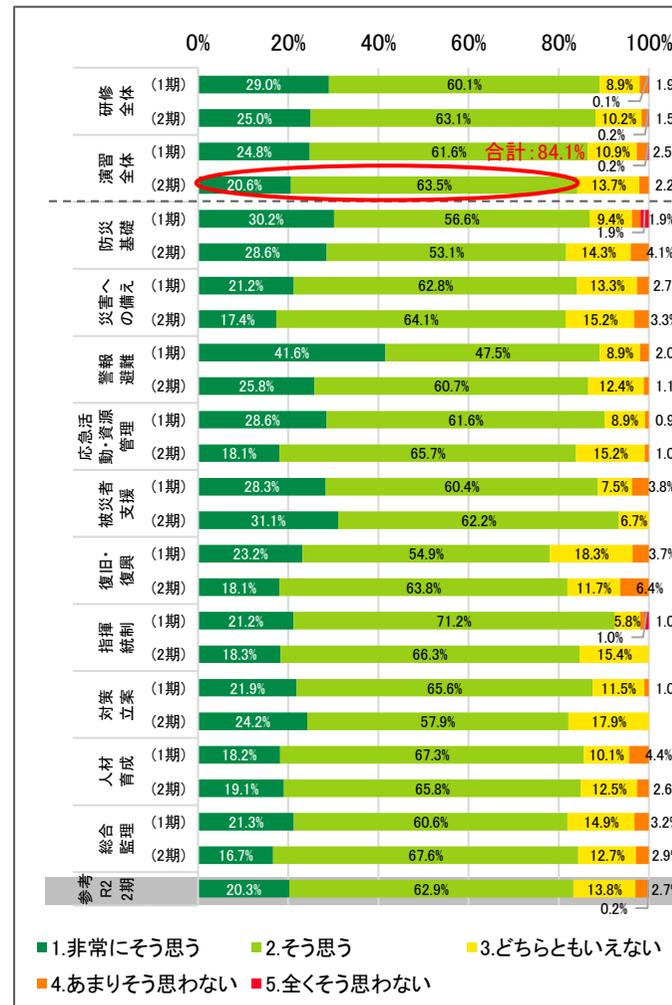
● 演習の満足度

この講義・演習の内容に対する満足度を100点満点で評価してください。

コース	点数	
	1期	2期
研修全体	87.8	87.9
リアルタイム演習全体	87.5	87.3
防災基礎	88.5	90.3
災害への備え	85.3	86.9
警報避難	89.4	88.2
応急活動・資源管理	87.5	85.9
被災者支援	89.3	89.2
復旧・復興	86.2	87.0
指揮統制	87.7	88.9
対策立案	87.7	86.9
人材育成	86.7	85.5
総合監理	88.0	87.5
(参考)令和元年度第2期	87.3	

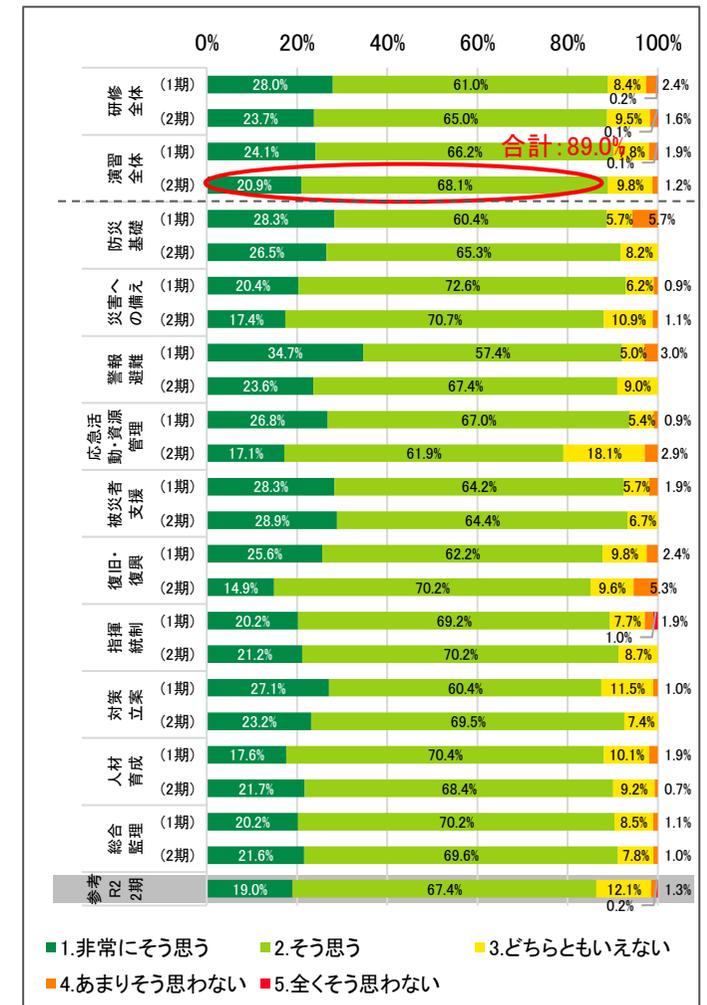
● 演習の方法や進め方への理解度

講義・演習の方法や進め方(話し方・態度・時間配分・作業・班割り等)は、理解しやすかったですか？



● テキストの視認性・分量の適切さ

テキストの視認性(見やすさ、分かりやすさ)や分量は適切でしたか？



2-2. リアルタイム演習に関するアンケート結果

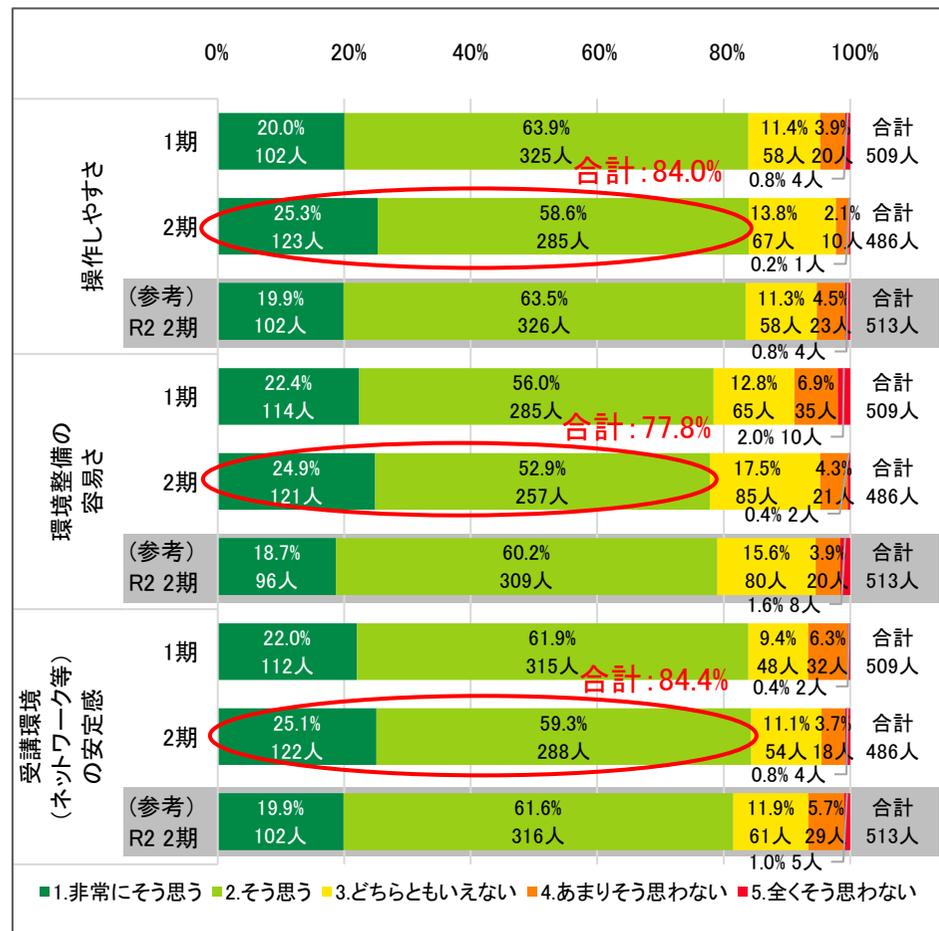
②リアルタイム演習及びシステム(Zoom)について

システム(Zoom)の「操作しやすさ」、「環境整備の容易さ」、「受講環境(ネットワーク等)の安定感」は、受講生の8割前後が「非常にそう思う」「そう思う」と解答している。リアルタイム演習の受講にあたって困ったことについては、「タブレット・スマホでの演習参加は機能制限があって難しい」、「Zoomの操作に慣れていないため、演習中操作に手間取った」、「職場の制限により、私物など別のPCを手配する必要があった」などの意見が挙げられた。

講師・コーディネーターからは、「投票機能の有効活用や班別討議中の質問への回答方法の検討が必要」、「情報化時代の災害対応のスキルアップになると同時に小規模自治体の情報化レベルの向上につながる」などのご意見をいただいた。

● リアルタイム演習のシステム(Zoom)の評価

- リアルタイム演習(Zoom)のシステムは操作しやすかったですか？
- リアルタイム演習(Zoom)の受講にあたって、環境整備は容易でしたか？
- リアルタイム演習(Zoom)の受講環境(ネットワーク等)は安定していましたか？



● 受講者意見

オンデマンド講義(LMS)やリアルタイム演習(Zoom)について、今後の改善に役立てたいため、環境の整備や受講環境等、受講にあたって困ったこと等、ございましたら自由にお書きください。
※リアルタイム演習のシステム(Zoom)に関する意見を抜粋

- タブレット・スマホでの演習参加は機能制限があって難しい。募集時などにPC推奨を明示してほしい。(18人)
- Zoomの操作に慣れていないため、演習中操作に手間取った(18人)
- 職場のセキュリティや通信量の制限、職場PCの機能の制限により私物や別のPC等を手配する必要があった。(16人)
- 回線の調子が悪く、途中で音声や画像が途切れた。(9人)
- 演習受講用の部屋の確保が難しかった(8人)
- 演習中に業務が入って演習に集中できなかった。(3人)

● 講師意見

講義の撮影やリアルタイム演習について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。
※研修全体のリアルタイム演習の改善につながる意見を抜粋

- 時々、受講者の声が聞こえない場面があった。(1人)
- 投票機能の有効活用方法や、班別討議の中で質問が出た場合の質問への対応について検討が必要と感じた。(1人)

● コーディネーター意見

最後にご意見等、ございましたら自由にお書きください。
※研修全体のリアルタイム演習の改善につながる意見を抜粋

- 演習にオンラインで参加することで、これからの情報化時代の災害対応のスキルアップになっていくのではないかと同時に、小規模自治体の情報化レベルの向上にもつながるのではないかと。

2-3. 人的ネットワークの構築に関するアンケート結果

① 人的ネットワークについて(受講者)

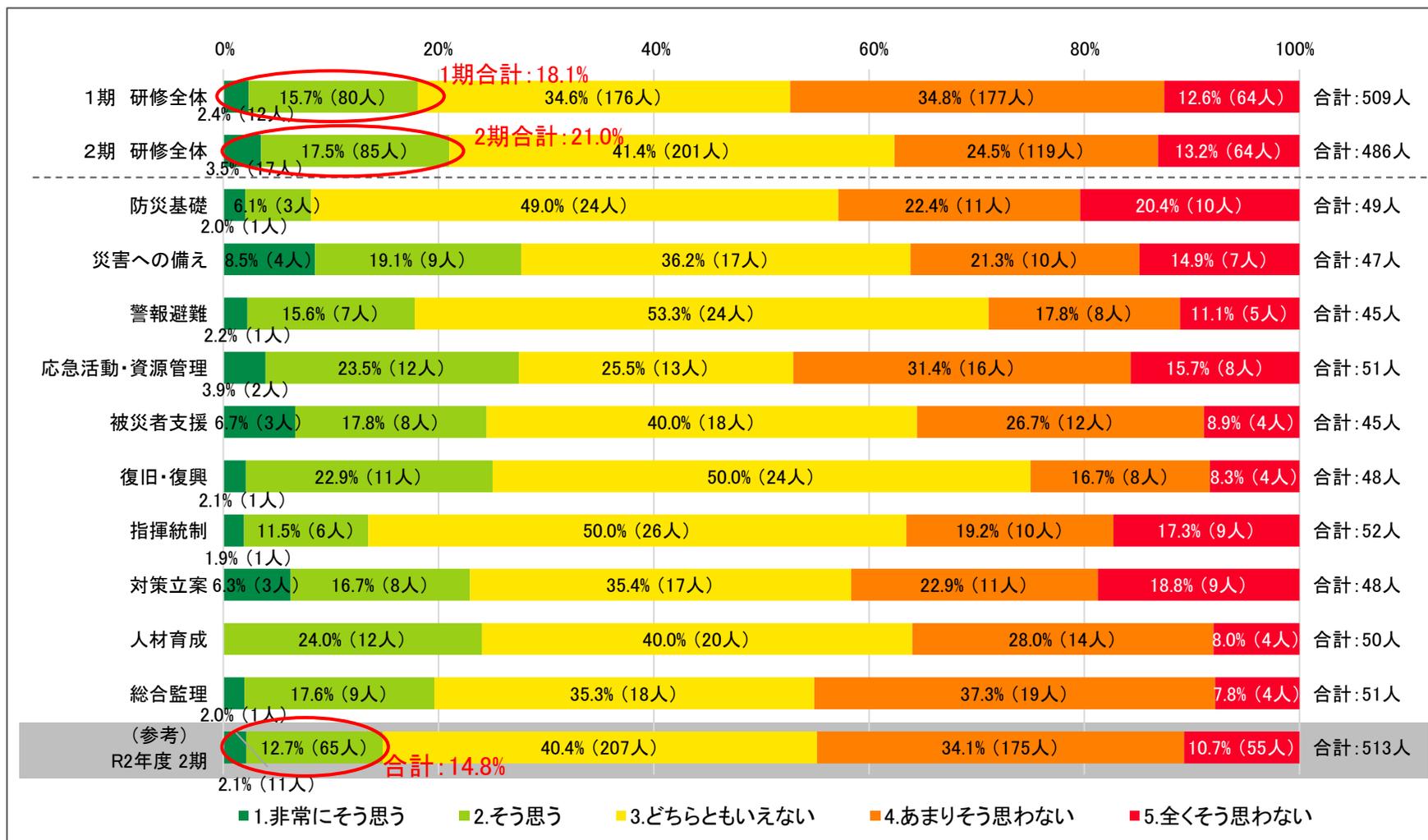
今年度の研修全体の1期全体では、「非常にそう思う」「そう思う」が18.1%、2期全体では21.8%だった。

令和2年度の2期全体では、「非常にそう思う」「そう思う」が14.8%だったことから、人的ネットワークの取組みは、昨年度と比べて改善されたと考えられる。

● 受講者の人的ネットワークの構築状況

人的ネットワークを作ることができましたか？

※2期は3/10時点のデータで集計



2-3. 人的ネットワークの構築に関するアンケート結果

② 人的ネットワークについて(講師・コーディネーター)

講師からは、「国・県・市町村・専門家の横断的なネットワークづくり」に役立つ研修になることで、研修の効果や必要性はますます高まるのではないかという意見を頂いた。コーディネーターからは、人的ネットワークを構築する方法案として、班別の意見交換を午前・午後にわたってじっくり行う、受講者に対する追指導・追確認などの手間実現を工夫する、個人のアドレス交換の場となるとよいことが挙げられた。

● 講師意見

講義の撮影やリアルタイム演習について、気づいた点や改善点などがあればお書きください。
※人的ネットワークの構築に関する意見を抜粋

<人的ネットワークを構築する方法案>

- 「何でも意見を言い合える場」としての意見交換(交流)の時間を引き続き設けていくことが我が国の防災にとって大変重要だと再認識した。この研修が、そういった「国・県・市町村・専門家の横断的なネットワークづくり」に役立っていけば、研修の効果や必要性はますます高まるのではないか。

● コーディネーター

人的ネットワークの構築について、気づいた点、改善点などがあればお書きください。

<オンライン研修での人的ネットワーク構築の取り組み>

- LMSの受講開始数日後に、オンラインで交流会を開催し、人的ネットワークの重要性、被災対応時に多くの知人が自治体にいることの有効性を伝えた。
- 今回の演習では、交流が深まることを期待してグループを固定して取り組んでもらった。受講者アンケートの結果を確認し、今後の方向性を考えたい。

<人的ネットワークを構築する方法案>

- グループでの議論の時間を会場の実施の場合に比べて倍ぐらいとらないと、参加者通しのコミュニケーションや、実施後の協力関係を築くことは難しいと思われた。会場への移動時間が不要になることを考えると、班別の意見交換を午前・午後にわたってじっくり行うような方法も考えるべきではないか。
- 受講者に対する追指導・追確認などの手間実現を工夫することで受講者相互の人的ネットワークづくりに貢献できるのではないか。低コストで効率の高い成果が得られる工夫が必要。
- (各人の承諾のもとに)アドレス付きの名簿を共有しているが、職域のアドレスではなく個人のアドレスの交換となっていけるようなつながり方に展開されれば、部署異動後もつながるため、人的交流の意義が高まるのではないか。
- ラインなどのSNSのネットワークとなっていると、災害時の相互支援の即応性が高まると思われる。

③人的ネットワークの構築(各コースの取組みの工夫)

赤字下線部: 令和2年度 第2期からの変更点

区分	コース	内容
名簿の共有	全コース	<ul style="list-style-type: none"> 連絡先入り名簿を受講者全員に共有した ※連絡先の共有については、受講申し込み時に了承をとった 連絡先は、所属先の電話番号、メールアドレス
	防災基礎、 <u>災害への備え</u> 、 <u>復旧・復興</u> 、 <u>人材育成</u>	<ul style="list-style-type: none"> 受講の動機や現在の業務内容など、時間の制約上、全体での自己紹介では話せない「ひとこと」を掲載した名簿を事前に共有した
	<u>警報避難</u>	<ul style="list-style-type: none"> <u>他の受講者と共有したい経験、業務実施上の疑問点、課題など</u>、全体での自己紹介では話せない「ひとこと」を掲載した名簿を事前に共有した
受講者同士の自己紹介の実施	全コース	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション後、全体での自己紹介を行った。<u>(オープニング交流会を実施したコースはその際に行った。)</u> <u>防災基礎コースはグループ討議時にグループ内で行った</u>
LMS開始前後に交流の場を設定	被災者支援	<ul style="list-style-type: none"> LMS受講開始前に「オープニング交流会」を実施し、互いの学習効果を高めるため事前に繋がる場を設けた ブレイクアウトルームで演習を行う班メンバーに分かれ、自己紹介やお互いの情報交換を行った
	復旧・復興	<ul style="list-style-type: none"> LMS受講中に「研修生オンライン交流会」を実施し、互いの学習効果を高めるため事前に繋がる場を設けた 自己紹介、コースの趣旨説明等を行った
	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <u>LMS受講開始前に「オープニング交流会」を実施し、互いの学習効果を高めるため事前に繋がる場を設けた</u> <u>受講生を2等分し、講師が各ルームに分かれ進行、各自治体の取り組み、人材育成についての悩みを共有した</u>
リアルタイム演習当日に交流の場を設定	防災基礎	<ul style="list-style-type: none"> <u>演習終了後、自由参加の「講師を交えてフリートーク」の場を30分程度設け、演習講師も交えた質疑の場を設けた</u>
	災害への備え	<ul style="list-style-type: none"> <u>全体討論後、自由参加の「質疑応答・交流会」の場を1時間程度設け、事前にもらっている質問への回答、意見交換、相談できる場を設けた</u>
	警報避難	<ul style="list-style-type: none"> 全体討論後、自由参加の「自由交流会」の場を1時間程度設け、参加可能なコースの各講師を交えた<u>全体での質疑応答を実施した</u>
	指揮統制	<ul style="list-style-type: none"> 全体討論後、コースの各講師にも参加いただき、1時間程度で自由参加の質疑応答(質問会)を実施した
	対策立案	<ul style="list-style-type: none"> 全体討論後、コースの各講師にも参加いただき、1時間程度で自由参加の質疑応答(質問会)を実施した
	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 事前に参加したいテーマの希望をとり、テーマごとに部屋を設け(各部屋を1講師が進行)、情報交換、悩み相談等の「人材育成に関するテーマ別情報交換会」を実施した <u>演習終了後、15分程度Zoomを開けたままにし、講師に個別に質問できる時間を設けた</u>
	<u>総合監理</u>	<ul style="list-style-type: none"> <u>グループ討議の時間を設けた</u>

2-4. 各コースのリアルタイム演習の特徴

各コースのリアルタイム演習の内容を下記に整理する。

赤字下線部: 令和2年度 第2期からの変更点

コース	演習のタイプ	ブレイクアウト ルームの回数	班替え	演習の特徴
防災基礎	グループ検討、発表、解説、 質疑応答	<u>3回</u>	無 (8班)	災害時に得られる情報を基にした対応シミュレーションを、前提条件と <u>3回</u> の状況・課題提示でグループ検討、市長に説明することを前提に発表、コーディネーター解説、質疑応答を実施
災害への備え	グループ検討、発表、解説、 質疑応答	2回	無 (8班)	<u>1単元目は「シチュエーションシート」を読み上げながら男女共同参画促進の施策をグループ検討。全体討論ではグループで「今後実施したい災害への備えの対策」を考え発表、投票。</u> 事前に実施したアンケートの質問に対する回答・解説、質疑応答を実施
警報避難	意見交換、解説、 グループ検討、発表、質疑 応答	<u>2回</u>	無 (9班)	<u>避難所点検手順書に取り組んだ上で、</u> 講師との意見交換、 <u>質疑、解説。</u> グループごとにコースを通して学んだこと、もっと知りたかったことを共有、班の意見をチャットに貼り付け全員に共有・発表、質疑応答を実施
応急活動・ 資源管理	グループ検討、発表、解説、 各単元の質問への解説、 質疑応答	3回	無 (9班)	事前学習で配布した設定シナリオを読み、書き込んできた内容を基に、グループで応援受援に関する情報交換、意見交換を行い代表班が発表。事前に実施したアンケートの質問に対する回答・解説を時間をかけて丁寧に行い、更に質疑応答を実施
被災者支援	講義、 <u>個人ワーク</u> 、解説、 グループ検討、ふり返り、 発表	2回	無 (6班)	トイレのガイドラインの講義後、 <u>「トイレの計算シート」個人ワークと解説。</u> 各班のファシリテーターを中心として、グループで <u>「トイレの配置演習」。</u> コースのふり返りでは、受講者中心でグループの意見共有、発表
復旧・復興	グループ検討、発表、講義、 質疑応答	2回	無 (9班)	国・県・市で班分け。演習では宿題の結果記入シートを事前に配布、当日グループ内で発表・意見の取りまとめをし、一部の班が発表。全体討論も同じやり方で一部の班が発表。各発表後に質疑応答の時間を設けた。最後に「事前復興」についての講義とコース全体のまとめを実施
指揮統制	記者会見・講評、グループ 検討、発表、質疑応答、解 説、ふり返り	2回	1回 (<u>13</u> →8班)	1単元目は、作成済み原稿での記者会見と講評、その内容を受けてのグループ討議、質疑応答。2単元目は、グループで各単元に対する感想・質問を整理して発表、コーディネーターと講師が回答。テスト問題作成と感想をチャットで提出。また、事前に実施したアンケートの質問に対する回答・解説
対策立案	講義、グループ検討、発表、 質疑応答、解説、ふり返り	<u>2回</u>	1回 (8→8班)	1単元目は、事前配布の資料一式とホームワーク(帳票作成)を基にグループで議論。首長レクをイメージし代表班が発表。2単元目は、グループで各単元に対する感想・質問を整理して発表、コーディネーターと講師が回答した。テスト問題作成と感想をチャットで提出。また、事前に実施したアンケートの質問に対する回答・解説
人材育成	情報交換会、グループ検 討、発表、質疑応答、講評	<u>4回</u>	<u>3回</u> (<u>6</u> → <u>10</u> <u>9班</u>)	1単元目は、6つのテーマから事前に選んだ希望のグループで班割し、各部屋を担当する講師中心に情報交換会。2単元目は、事前に読み込んできた体験談をもとにグループ討議と発表(エスノグラフィー演習)。3単元目は、 <u>2つのテーマごとに</u> グループ討議を実施。各班のまとめた意見を、テーマごとに講師がコメント・講評
総合監理	<u>グループ検討</u> 、座学、質疑 応答、講義	<u>1回</u>	<u>無</u> (<u>9班</u>)	2名の講師による講義後、 <u>グループで各自組織の体制について意見交換、質問をまとめ、発表形式で質疑応答。</u> 最後にコーディネーターが講義とコース全体のまとめを実施